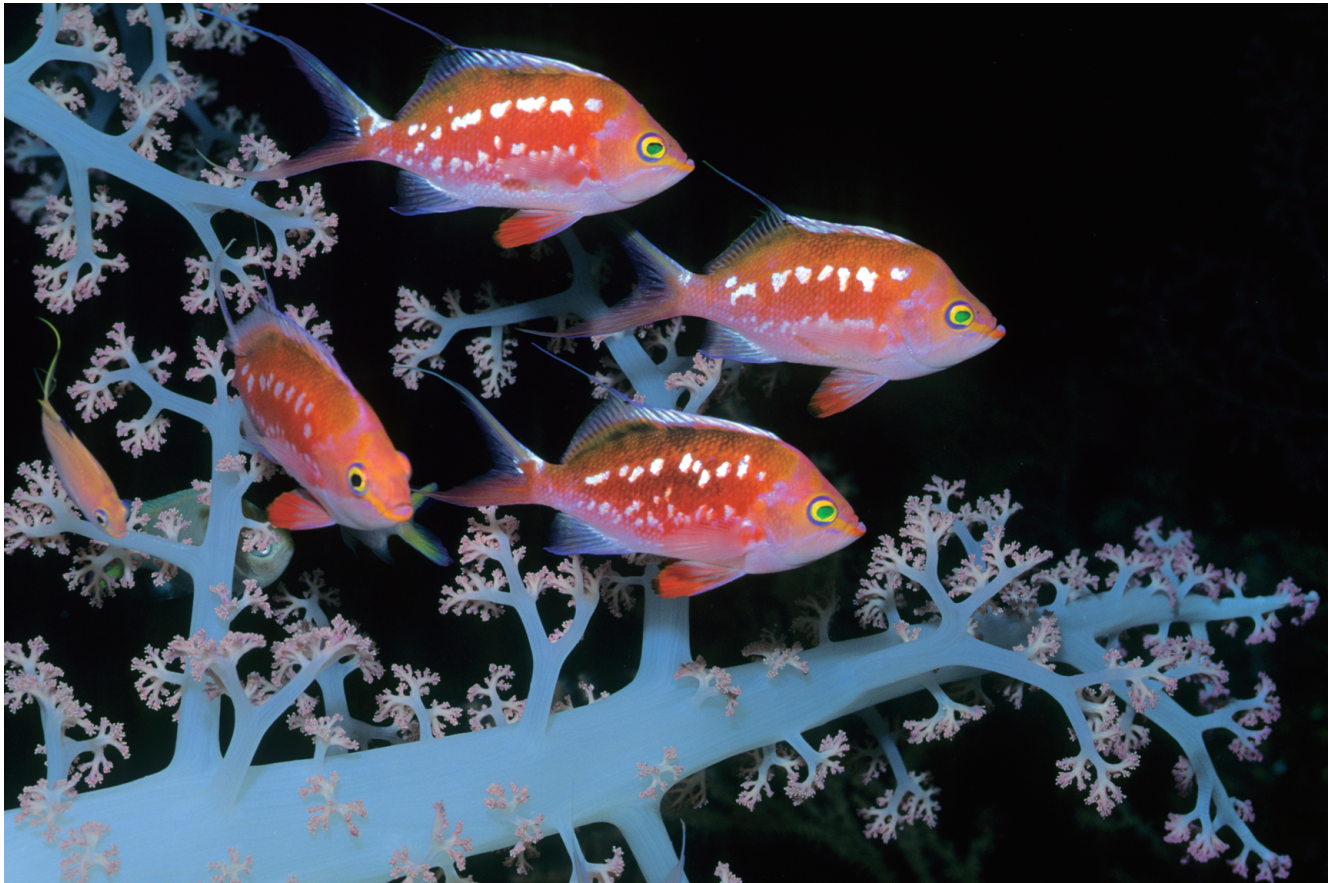


自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 19, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun., 2013



サクラダイ

Sacura margaritacea (Hilgendorf, 1879)

小林安雅 撮影

伊豆海洋公園（静岡県伊東市）
相模湾 水深 40 メートル

せのう ひろし
瀬能 宏（学芸員）

サクラダイは、日本や韓国、台湾の沿岸の水深 20 ～ 100 メートルの岩礁に生息するハタ科の魚です。釣り上げられる機会が多いためか、新種として記載されたのは日本産魚類の分類学史の中でも早い時期で、1879 年のことでした。

しかしながら、水中を群れ泳ぐこの魚の姿が観察され、カラー写真で記録されたのは、益田 一 氏とそのグループが伊豆海洋公園で海洋動物の調査や撮影を始めた 1960 年代になってからのことです。ダイバーにとって深海に等しい暗い海底では、赤い色は黒く沈んでし

まいますが、持ち込める水中ライトはまだありませんでした。フラッシュバルブで撮影した写真を現像して初めてその美しい姿を確認できたのです。

益田氏らはその著書「日本の海洋動物:深海 90メートルまで」(学研, 1969 年)の中で、サクラダイを「深海の踊り手」と呼び、初めてその姿を捉えた時の感動を「窒素酔いの幻想だと疑いさえした」と書いています。40 年あまりの時を経て、潜水技術も撮影技術も格段に進歩しましたが、“深海”には今なお未知なる生物の世界が広がっています。